

【資料3-4-2-1】

<プレスリリース>

日本/デンマーク海運セミナー

2004年11月17日

日本への公式訪問に際して

2004年11月15日～19日のデンマーク王国女王陛下および王配殿下公式訪問に際し、日本船主協会とデンマーク船主協会は、11月17日に東京で海運セミナーを共催した。

セミナーは、現下の海運諸問題に関する意見と経験を相互交換し、友好関係を促進するとともに、日・デンマーク海運関係者間の互惠に資する対話を更に推進することを目的として開催した。

海運セミナーは、デンマーク王国王配殿下のスピーチによって開会した。殿下は、日・デンマーク両国間の長きに亘る海運の歴史に焦点を当て、特に両国間の貿易の拡大と1912年に締結された日・デンマーク通商航海条約に言及された。同条約は今日も両国間の海運での協力の礎である。

クヌッド・ポントピダン デンマーク船協会長は、1998年に導入されたデンマーク第二船籍制度(DIS)および2002年導入のトン数税制に関する自国の経験を紹介した。これら積極的な施策によりデンマーク海運界に世界と平等・共通の競争条件が付与され、諸コストが割高な国状にもかかわらず、デンマークが重要海運国としてさらに発展することが可能になった。最後にポントピダン会長は、海運業の利益となる国際貿易および海運サービス自由化と、国際貿易を促進する効率的で競争力ある世界的輸送システムの創造に向けた努力を継続する重要性を強調した。

草刈隆郎 日本船協会長は、日本海運界が国際的に平等な競争条件を確保するため、トン数税制や第二船籍制度などの新たな外航海運政策導入が不可欠であることを強調した。外航船社間協定に対する独禁法適用除外制度に関しては、草刈会長はある国・地域での一方的な法制の変更は、貿易相手国・地域の関係法制との不整合を引き起こす可能性があり、このような事態は国際サプライチェーンに深刻な経済的影響を与えかねないとの懸念を示した。同会長は、関係者間で国際的に合意可能な解決策を検討すべきであると強調した。

ヤーンハマーハンセン デンマーク海事局長は、日本とデンマーク海事当局間の良好か

つ建設的な協力の深い意義を強調した。ハマーハンセン局長は、地域的な規制より世界的な協力との観点から、IMO の枠内でのクオリティ SHIPPING や効率的なポートステートコントロール(寄港国による監督)実施に向けた長期的政策の追及の重要性に留意した。また、海賊対策の重要性が強調された。

矢部哲 国土交通省海事局長は、旗国による施策やポートステートコントロール、インセンティブ制度導入を通じ、世界規模でクオリティ SHIPPING を達成することの重要性を強調した。矢部局長はまた、海事保安向上には 3 つの C、即ち Cooperation(協力)、Continuous improvement with experiences(経験を踏まえた継続的な改善)、Capacity building(能力強化)が必要であると指摘した。最後に、矢部局長はより安全で良質な海上輸送は日・デンマークを含む国際社会の協力強化により実現されるべきであると強調した。

日本/デンマーク海運セミナー閉会にあたって、双方の出席者は、セミナーが所期の目的を全面的に達成し、極めて積極的かつ建設的に友好的な意見交換が行われたとの認識を共有した。

本セミナー後には、女王陛下と王配殿下ご臨席の下、昼食会が開催された。

以上